

山陽新聞は、3月2日付で「喜びと戸惑いの門出」と題し、岡山県教委がマスクを外して出席する方針を示した公立高校の卒業式について伝えている。2020年春に入学した生徒たちの青春は、かつてないさまざまな制約を強いられた。「友人のマスク姿しか思い出せないのはやっぱり寂しい」「今更、顔を出すのは恥ずかしかった」との声があった。

「目は口ほどに物を言う」といのが、これは、顔全体が見えることを前提としているのではないだろうか。パンデミック（世界的大流行）で世界は分断され、身近な人とのつながりにも距離が空いてしまった。表情豊かに自らの感情を発露することにも、相手の心に触

山陽新聞を~~読~~んで

AMD A理事 難波妙



心のマスク外す勇氣

れることにも、「戸惑い」スクしなくても大丈夫不安と恐怖におびえるとともに、マスクが有が無意識のうち心に刷り込まれてしまったので問した。「前まではいい。まさかと危惧していい。適当で大丈夫だ。スクを外すよ！」との答えに、笑

いがあふれた。この「適当」こそ自己判断である。去年9月、モンゴルでは既にマスクをしていない人は誰もいなかった。思い返せば、昨年3月、ウクライナ避難者みから、息災であるこ

ないかと。

支援のため、ハンガリーにで活動したとき、マスク着用不要の政策が

2月、未曾有の震災に見舞われたトルコ。その被災者支援活動中にAMD Aは、トルコと日本の中学生をオンラインでつないだ。トルコ側からの「なんでマスクをしてるんですか？」との質問に、日本から、コロナの感染予防のためと答え、「マ

「山陽新聞を~~読~~んで」は月2回、日曜日に掲載します。